

2022

法政大学大学院経営学研究科

法政ビジネススクール





前に進むために一歩引いてみる

法政大学大学院経営学研究科長
小川 憲彦

学びの門の前に立つ皆さんへ

経営大学院での学びを検討している皆さんは今、どこで学ぶべきか戸惑っているかもしれません。日本に限らず、いわゆるMBAを輩出するビジネススクールのカリキュラムは、驚くほど似通っているからです。

組織行動、HR、マーケティング、物流、生産、会計、ファイナンス、統計、情報技術、そして戦略や国際関係科目。これらを網羅していないビジネススクールは探すほうが難しいでしょう。HBS(法政ビジネススクール)もご多分にもれず、これらを含む80以上の専門科目が用意されています。

ビジネススクールは一般に、ハーバードに代表されるケース重視型と、カーネギー・メロンやスタンフォードに代表される研究重視型に大別されます。しかし一方、どこのスクールでも、個々の授業特性や学習目標に合わせて様々な教授法が用いられています。HBSは研究を重視する後者に属しますが、ケース、レクチャー、ワークショップ、演習など様々な学習形態が取り入れられている点では変わりません。学部のように偏差値があるわけではありませんから、どこで学べばよいのか頭を悩ませるのは仕方がないことでしょう。

日本の私立大学で最も早く、1992年4月から社会人向け夜間大学院を開設して以降、HBSは少人数教育を積み重ねながら、経営者、管理者、起業家、会計士、各種専門スタッフ、あるいは大学で教鞭をとる者まで、既に1000名近い修了生を送り出してきました。こうした過去の実績は信頼の目安にはなりますが、一層重要なのは、今とこれからを生きる皆さんにとっての意味です。

最前線に立つ実務家こそ

そもそも、なぜビジネススクールで学ぼうとするのでしょうか。一つは言うまでもなく、自身の仕事に関する見識を高めるためだと思います。言い換えれば、物事の本質を捉える力や判断力を養い、これからのキャリアに生かすためでしょう。

HBSの特徴の一つは、各々の志向・フィールドに沿って深く学ぶ点です。具体的には、企業家養成、人材・組織マネジメント、マーケティング、アカウンティング・ファイナンス等の専門コースに分かれることで、各領域について多角的に学ぶことが可能です。例えば、私の所属する人材・組織マネジメント・コースではヒトの管理や組織の問題を扱いますが、社会学、心理学、経済学などの異なるバックグラウンドを持った8名の教員が様々な角度からアプローチしています。他のコースも同様に、各領域を専門としながらも多様な背景を持つ専任教員が各々6～12名配置されています。一つ一つの領域にこれだけ多く多様な教員を配置して

いるスクールはあまりないはずです。コースを超えた分野横断的な履修も可能ですが、個々の関心に沿った深い学びが可能です。

経験の浅い若者に対し網羅的な教育を行うことで、若きゼネラル・マネジャー候補を育成するアメリカ型のビジネススクールに対し、HBSが対象とするのは、むしろ相応の経験を持った現役の経営管理者であり実務家です。最前線で活躍し、現場に根付いた問題意識を持ちながら、さらなる改善を主導しようとする管理者や専門職者を歓迎します。

前に進むために一歩引いてみる

ビジネススクールで学ぶもう一つの意味は、真の経験を得るためだと言えるかもしれません。知っているはずのことを学び直すためです。

社会人院生が求めるものの一つに「意味」があります。経験はある。しかし、その意味がうまく説明できない。多くを経験しながらも消化されないまま、通り過ぎていくように感じる。自分の中で整理・統合ができていない。多様な、あるいは体系だったモノの見方から経験を捉え直したい。経験を腹落ちさせたい。自分の中にうまく根付かせ、指針として、あるいは資産として、もっと活用したい。そういう声です。

真の経験を得るためには内省が必要です。内省とは、経験を振り返り、そこに意味を与える行為です。目の前を流れる膨大な経験を、現場から一歩引くことで俯瞰し、客観視し、その意味をじっくりと考える。そうすることで初めて、経験から学ぶことが出来ます。ビジネスマンは文字通りせっかちですから、振り返りなど好まないかもしれません。しかし、高く飛ぶためには一度しゃがむ必要があります。

この時に大切なことは、自分自身で考える、ということです。意味は教えてもらうものではありません。だからこそ、HBSでは自分ならではの経験に根差したテーマを対象とした研究に、自分自身で取り組むのです。自身のテーマと多様な考え方を照らし合わせることで、これまでとは異なる新たな視点、新しい意味によって経験を捉え直すことが出来ます。大学院では多くのインプットも行われますが、理論や概念は自身の経験と結びついて初めて生きるものです。それを助けてくれるのが研究活動です。

これはケース学習を否定するものではありません。ただ、突き詰めて考えるべき題材は、既に皆さんの中にあります。無数のケースに答えを出しても、自身が抱える現実の問題に向き合わない限り、本当の経験は得られないでしょう。研究を通じて自らの経験を一歩引いて考えてみる。そこから得た学びによって、次なる道へと踏み出していく。それこそが社会人の学ぶ意味ではないでしょうか。



当コースの授業の様子

企業家としての洞察力を徹底的に鍛える

企業家養成コースが開講されたのは1992年であり、企業家の養成を目指すコースとしてはわが国初めてのものです。文字通り、

企業家養成のイノベーターだと言えます。本コースでは、創業を志す人はもちろん、企業内で新たな事業や取り組みに挑戦しようとする人、事業の承継を志す人、企業家の支援に携わる人、社会問題の解決に取り組む人など、幅広い「企業家」を想定し、その洞察力を徹底的に鍛えられるよう、アカデミックの側からお手伝いをしていきます。

企業家が直面する状況は常に新しく、将来は常に不確実です。その中で的確な決断を下すためには、表面的・一時的な現象ではなく、本質を鋭く見通す洞察力が必須です。企業家養成コースでは、この力を磨くために、まずは経営学の基礎的かつ多様な考え方をしっかりと身に付けることを重視しています。

例えば、「ワークショップ」は、企業家本人の口から語られる経験を聴く場です。第一線で活躍している企業家をゲストとして招き、企業や事業を起こした経緯・動機、そのときの苦労や問題点、現在直面している経営上の課題や対応策などについてお話いただき、議論を深めていきます。この双方向的な授業を通じて、参加者は語られる言葉の行間を読み込む

とともに、企業家の置かれた立場を想像し、迫体験しながら、企業経営の本質を考えることになります。

また、企業家活動、経営戦略論、イノベーション・マネジメント概論、企業間関係論、企業家史など、企業家の洞察力涵養に欠かせない科目も、数多く用意されています。経営学は、時代の中で揺れ動く企業経営を冷静に見つめる、ダイナミックかつ挑戦的な学問です。長年にわたる経営学の分厚い蓄積の中には、変わりゆく現実を論理的に分析するための有効なアプローチが、数多く詰まっています。それを体系的に学ぶことで、企業家としての思考力を基礎から鍛えていきます。

2年次には、担当教員の集中的な指導を受けながら、アカデミックな修士論文を執筆することが学生生活の中心となります。この作業は、様々な科目の中で学んだ経営学のアカデミックなアプローチを、自らの手で実践してみる作業にほかなりません。一見遠回りに見えても、論文を自分自身で執筆する経験を通して、企業家として必須である論理力・構想力が飛躍的に高まることになります。

毎年、本コースには多様な経歴の社会人が集まってきます。しかし、その全員が、ビジネスの現場で強い問題意識を持っているという点で共通しています。教員を交えてアカデミックな世界との対話を常に行い、在学生同士がそれぞれの経験に基づき、多様なトピックについて実践的な議論を展開することも可能です。こうして育まれるネットワークは、さまざまな交流を通じて発展し、修了後も大切な財産となることでしょう。

●教員紹介および担当科目（2021年度）

教員名	研究テーマ	主な担当科目
稲垣 京輔 教授	企業家活動と組織変革に関する研究	ワークショップ（企業家養成）、企業家養成演習
金 容度 教授	企業システムの歴史の国際比較、企業間関係に関する研究	企業家養成演習
近能 善範 教授	企業間関係とイノベーション	イノベーション・マネジメント概論、企業家養成演習、経営学原理（昼間コース）
福島 英史 教授	企業戦略と組織、技術革新に関する研究	経営学基礎（夜間コース共通）、企業家養成演習
吉田 健二 教授	経営戦略の策定と実行に関する研究	経営戦略論
二階堂行宣 准教授	日本経営史・日本経済史	企業家史、企業家養成演習

●MBA修了生・現役生の声

自分に必要な“何か”を得られる2年間

私は大学卒業後、某企業を経験した後、家業を継ぐため現社へ入社しました。中国、日本各地での勤務を経ていく中で、このまま経営者となり、この厳しい社会で生き残れるのか、常に自身の中で漠然とした不安を抱えていました。

自主的な学びに物足りなさを感じていた頃、HBSの存在を知りました。立地や方針もさながら、MBAとは、ワークショップやケーススタディ、修士論文とはどういったものか、私は自分に必要な“何か”を得たい一心でHBSの門を叩きました。HBSの授業は少人数で先生との距離も近く、双方向からの活気あるものでした。ワークショップでは実経営者の方々の生の声が聞け、踏み込んだ質問もできました。ケーススタディでは自身の実務上の課題と重なる事柄も多く、いくつも参考にさせて頂きました。修士論文を書くことには不安を感じておりましたが、実際に担当教授の先生と自身のテーマについて考察し掘り下げる行為は、先行研究などアカデミックな観点からも実務を見直すことで、これまで気付

祭本 利樹さん（2019年3月修了）
サイモト自転車株式会社



なかった視点でモノを見ることができたように感じます。しかしながら、それまでの日常と学業を両立することは容易ではありませんでした。平日は仕事を早く切り上げて講義、週末も講義と課題をこなすなど、多忙を極めました。ただ、これまでの人生で最も勉強し、充実した期間だったのではないかと今は思えます。

HBSを修了して得たこととして、日々起こる様々な事柄に対し、以前より確実に、論理的に考え、方向性を見出せるようになったと感じます。あとは何より、価値観を共有できる様々な業界の学友ができたこと、気兼ねなく相談ができる仲間ができたことが最大の糧と思います。

HBSでは学位や知識、論理的思考に加え、得難い人脈が得られました。私にとってそれらが求めていた“何か”だったように、今後HBSを検討する方にも、求めている“何か”がきっと見つかることと信じております。



西川真規子 教授

人材と組織の課題を考え、実践する人のために

人材・組織マネジメントコースは、法政ビジネススクールが創設された1992年、「人的資源管理コース」としてスタートしました。その後「人材開発コース」、そして現在の「人材・組織マネジメントコース」と名称は変わりましたが、基本的な教育理念は一貫しています。企業等

で現実に生じている人材や組織に関する問題を、アカデミックな理論、実証分析の方法を用いて調査・分析すること、それらを通して、課題の解決に資するような含意を得て、実践に生かす能力を身につけることです。

本コースの特徴の一つ目は、人事、労働、組織というかなり広範な分野の研究者を専任教員として多く配置していることです。研究テーマが幅広いというだけでなく、バックグラウンドとなる学問分野（経営学、社会学、経済学、心理学など）や実証分析の方法（質的調査、量的調査など）も多様です。したがって、院生は人材と組織を考える上で必要なさまざまな理論的知識、思考方法を学び、それらを実践的な課題解決に生かす応用力を身につけることができます。

本コースの特徴の二つ目は丁寧な修士論文指導です。論文指導は、一人ひとりの学生に割り当てられる指導教員が主に行います。この他にも、研究テーマの構想やプロポーザルの発表、中間段階の研究報告など節目、節目で、コースの全教員と全院生が参加して一日がかりの報告会を

行っています。報告会では、指導教員以外の教員からも、多面的なコメントを得ることが可能です。過去の優れた論文の中には学会賞を受賞したものもいくつかあり、また、『キャリア研究選書シリーズ日本の人材形成1.プロフェッショナルの人材開発』、『同2.女性の人材開発』、『同3.雇用形態の多様化と人材開発』、『同5.国際化と人材開発』（ナカニシヤ出版、2006～2007年）などとしても公刊されています。

皆さんは、これまで他者と協業する中、人材や組織に関わる様々な課題に直面してきたのではないのでしょうか。これらの課題を他者にも理解できるよう客観的に整理し、伝え、そうした課題が生じる原因を解明することを通じて、解決策を提示することを、私たちはアカデミックな観点からお手伝いしたいと思っています。このようなアカデミックアプローチは現場での実践とは異なり、先行研究の探索や論理的思考を用います。最初は戸惑うかもしれませんが、これまでの修了生たちの経験から、アカデミックアプローチを習得することの意義は、ビジネスでもきわめて大きいと、私たちは確信しています。



●教員紹介および担当科目（2021年度）

教員名	研究テーマ	主な担当科目
小川 憲彦 教授	組織社会化、組織と個人の適合	キャリアマネジメント論、人材・組織マネジメント演習
奥西 好夫 教授	雇用・人事制度の統計分析、国際比較	人材・組織マネジメント演習、組織経済学（昼間コース）
岸 真理子 教授	組織と情報、組織コミュニケーション	経営情報論、人材・組織マネジメント演習
佐野 哲 教授	労働力需給調整システム、社会政策	2021年度の担当科目なし
佐野 嘉秀 教授	人材マネジメント、雇用システム	人的資源管理論、人材・組織マネジメント演習
長岡 健 教授	職場学習、組織エスノグラフィー	ワークショップ（人材・組織マネジメント）、人材・組織マネジメント演習、経営学演習（昼間コース）
西川真規子 教授	ジェンダーと労働、仕事と生活	組織行動論、人材・組織マネジメント演習
戎谷 梓 准教授	異文化間マネジメント、国際チームマネジメント、グローバル人材	国際人事、経営学演習（昼間コース）
永山 晋 准教授	創造性と概念	人材・組織マネジメント演習、経営学演習（昼間コース）

●MBA修了生・現役生の声

仕事人として、自分の糧になる経験

外資系IT企業の人事部門に勤務していた時、新たな人事制度を導入するため、人事や組織に関する専門知識を身に付け、経営の視点をより強化する必要があると感じ、大学院への進学を決めました。専門の人事分野では、アカデミックな視点がとても新鮮で、様々な理論や事例により理解が深まりました。専門以外の分野では、経営学を体系的に幅広く、効率良く吸収することができました。修士論文の執筆は苦労しましたが、「企業合併が従業員のモチベーションに与える影響」をテーマに書き上げ、幸い日本労務学会の研究奨励賞を受賞することができました。

その後、地方公務員に転職し、財政分析、人材育成、観光振興、シティプロモーションなどの職務を経験してきました。そこでは、自分の専門である人事以外にHBSで学んだ会計やマーケティングなどの基礎知識も役に立っています。人材育成の業務では、団塊の世代が退職し、組織全体の年齢構成が若返るな

桜井 安名さん（2006年3月修了）
中野区役所



かで、若手人材の育成が大きな課題でした。組織で人が意欲的に働き、育つ要素を考えた時、修士論文の内容と重なる部分が多くあり役立ちました。また、現在はシティプロモーションが主な業務ですが、マーケティングの基本を生かせる場面がいろいろあります。

仕事をしながら大学院に通うことは時間的にとても大変でしたが、仕事が忙しくても学び通せたこと、先が見えず苦しい時期があっても粘り強く続け修士論文を書き上げることができた達成感、そして、先生や仲間との繋がりは、仕事人として自分の糧になる経験だったと、卒業して十数年経つ今でも強く感じています。育児をしながら昇任選考に挑戦するなどキャリアに悩むこともありましたが、HBSで学んだ経験が私の仕事人生を前に進めてくれています。



田路 則子 教授

マーケティングを深く学びたい人のために

マーケティングコースでは、実務での豊かな経験を持ち、研究者としても国内外で業績を積んでいる教授陣が、皆さんをお待ちしています。「マーケティング論」、「流通システム論」、「製品開発論」、「消費者行動論」、「サービス・マネジメント論」といった専門科目で理論

を学習し、「マーケティング・リサーチ論」、「統計データ解析」で調査・分析の方法論を身につけ、そして時流にあったテーマで開催される「ワークショップ」で、多数のゲストスピーカーと参加者同士の活発な討議を通して実践的に学び、マーケティングを体系的に深く理解することができます。

1年次には、こうして学んだ理論と実務での課題を照らし合わせ、自分なりの研究課題を膨らませていきます。このことが、今までにない問題意識を持つ研究やビジネスのアイデアをもたらす可能性を高めます。少々難しそうに思われるかもしれませんが、「この理論は何か現実とは違うかも」、「この理論の考え方に当てはめると、現実の問題がクリアになりそう」といった直観的なひらめきで充分です。1年次の終わりには、研究計画の報告を行い、研究テーマに近い専門分野のマーケティングコースの教員が、ゼミ指導教員となります。

とはいえ、「マーケティングの知識もないのに、そんなに上手く研究できるのだろうか」と不安に思うかもしれませんが、心配ありません。皆さん

自身の努力も必要ですが、講義での数多くの仲間との議論や学習によって、楽しみながら理論や方法論を身につけていくことができます。さらに先輩や卒業生もアドバイスをしてくれます。同期や先輩との関係は、マーケティングの深い理解をもたらすだけではなく、かけがえのないネットワーク構築にもつながります。

2年次には、演習(ゼミ)において、教員による丹念な論文指導のもと修士論文を作成していきます。6月と11月に開催される2回の中間報告会では、その途中経過をコースの全教員に報告し、専門的なアドバイスを受けます。このように、担当教員だけが指導するのではなく、コース全体が協力して、皆さんの修士論文の完成度を高めていきます。さらに、卒業後に修士論文を磨いて、マーケティング系の学会発表に臨んだり、博士課程に進んで研究者を目指すことも珍しくありません。

皆さんの研究課題は、我々教員にとっても、実務とアカデミックの新たな接点となりえます。皆さんと一緒に、マーケティングの新しい研究ができることを期待しています。



●教員紹介および担当科目(2021年度)

教員名	研究テーマ	主な担当科目
木村 純子 教授	農産物マーケティング、地理的表示保護制度、地域活性化	マーケティング演習、経営学演習(昼間コース)
竹内 淑恵 教授	広告コミュニケーション効果、ブランド・マネジメント、消費者行動	マーケティング論、マーケティング演習、マーケティング特論(昼間コース)、経営学演習(昼間コース)
田路 則子 教授	製品開発イノベーション、ハイテク企業の成長戦略	製品開発論、マーケティング演習、経営学演習(昼間コース)
新倉 貴士 教授	消費者行動、ブランド・マネジメント	消費者行動論
西川 英彦 教授	デジタルマーケティング、ユーザーイノベーション	2021年度の担当科目なし
横山 育理 教授	日本型流通システム、商業まちづくり	流通システム論、マーケティング演習、経営学演習(昼間コース)
猪狩 良介 准教授	消費者行動の統計分析、広告効果測定、バイス統計データ分析	統計データ解析(夜間コース共通)、マーケティング演習
長谷川翔平 准教授	購買履歴データの統計分析、マーケティング・サイエンス	マーケティング演習、経営学演習(昼間コース)

●MBA修了生・現役生の声

HBSで得たさまざまなもの

私は市場調査の会社に新卒で入社してから10年ほど経過したのちに、HBSに入学しました。同じ仕事を長年続けていると、自分の限界を感じたり、行き詰まりを感じたりすることも増えてきたため、HBSに興味を持ちました。

1年次では、平日夜間と土曜日に授業を受けました。仕事との両立になかなか苦労しましたが、同級生と一緒にワークを行う講義も多く、マーケティング専攻に留まらず、その他の研究科の方とも知り合うことができ、さまざまな刺激を得ることができました。

2年次では修士論文の作成がメインとなります。自分の問題意識から仮説をつくり、アンケートでデータを集めて実証することを1年かけて行いました。論文作成はHBSの醍醐味であり、指導教員の先生を中心に多くの先生方から懇切丁寧な指導をいただきました。マーケティングの理論と実務を組み合わせる論文を執筆できたことは本当に有意義でした。

渋瀬 雅彦さん(2013年修士課程修了・2020年博士課程修了(博士号取得))
横浜商科大学



修士修了後に、もっと自分の研究領域を深めたいと思い、博士課程に進学しました。最初の数年、まったくもって成果を得られずに苦しみ、もはや諦めてしまおうかと思う時期もありました。そんな時でもHBSの先生方からさまざまなかたちでアドバイスやサポートをいただきました。そのおかげで、8年かけてなんとか無事に博士号を取得することができました。また、博士修了後に大学の専任教員に採用いただき、現在は教育活動と研究活動を並行して行っています。入学する以前は、まったくもって予想していなかったのですが、HBSで得たさまざまな経験やさまざまな人との出会いのおかげで、今のようない仕事に就くことができたと思います。

HBSを検討しているみなさんの中には、いろいろなことで入学を迷っている方もいるかもしれませんが、一度チャレンジしてみたいかがでしょうか。

アットホームな雰囲気とマンツーマンの研究指導体制



岸本 直樹 教授

HBSアカウティング・ファイナンスコースの特徴は、多様な研究領域の教授陣が揃っている点です。「会計とファイナンス」という大きな枠組みのなかに、財務会計論、管理会計論、税務会計論、経営分析、基礎・実証ファイナンス、コーポレート・ファイナンス、国際会計論、租税法といった多様な専門科目を幅広く設置しています。大学院での講義はアットホームな雰囲気のなかで進められ、質疑応答などが非常にきめ細やかに行われます。また講義では、理論的な説明のみならず、ワークショップなど他の企業の実務などに触れられる機会も提供しています。

2年次に行われる修士論文の指導では、それぞれの社会人院生が、自らの研究テーマに最も近い教員のもとでマンツーマンの指導により論文を執筆します。さらに、関連した研究領域の教員、また研究方法でアドバイスを与えることのできる教員が必要に応じて入れ替わり立ち替わりサポートを行います。

大学院での学習において社会人院生の方に期待したいのは、大学院で学習する理論と皆さんの実社会での経験を常に比較して考えていただきたいということです。会計やファイナンスの研究テーマは皆さんの日常業務の中に潜んでいることも多く、実務の現場を知っている社会人院生

は大きなアドバンテージを持っているはずです。

その一方で、社会人院生の方に学習を進める上で気をつけていただきたいこともあります。理論を学んでいる時に、自社の状況だけを考え、「実際の現場ではそのようなことはありえない」という考えを持ってしまうことです。理論は多くの企業の実務から共通部分を抽出し、またいくつかの基本的な仮定に基づいて組み立てられる性格を持っています。理論で示されていることと実務を常に比較して考えていくことで、理論のいっそう深い理解が可能となることもあります。また、理論と実務のギャップを認識することで、思わぬ発見があり、そこから新しい理論や実務のヒントが生まれる可能性もあります。そのような一連の過程を皆さんと一緒に経験しながら、現実にある様々な問題を深く掘り下げて考えていくことが、社会人大学院での研究の醍醐味だと思っています。

皆さん、アカウティング・ファイナンスコースで一緒に研究しましょう。



●教員紹介および担当科目（2021年度）

教員名	研究テーマ	主な担当科目
神谷 健司 教授	中小企業の会計基準のあり方、会計教育プログラムの研究、学校法人会計基準の研究	2021 年度の担当科目なし
川島 健司 教授	資産の時価測定に関する実証的研究、資産評価の会計基準分析、時価主義会計の学説研究	アカウティング・ファイナンス演習
岸本 直樹 教授	オプション等のデリバティブの価格理論、資産の証券化に関する経済学的分析、住宅ローンの期限前償還、ビジネス教育の研究	コーポレート・ファイナンス
金 裕晋 教授	企業の財務行動	実証ファイナンス入門
倉田 幸路 教授	現代会計理論、EU 会計論	財務会計論
坂上 学 教授	XBRL と財務ディスクロージャー、財務数値の分布特性に関する研究、機械学習を応用した会計不正の発見	2021 年度の担当科目なし
高橋 美穂子 教授	会計数値に基づく企業価値評価	2021 年度の担当科目なし
筒井 知彦 教授	企業会計と利益計算	会計学基礎（夜間コース共通）
福田 淳児 教授	MCS の設計と組織学習、スタートアップ企業における MCS の発展	管理会計論
福多 裕志 教授	日米企業の財務位相分析	経営分析
山崎 輝 教授	金融テクノロジー、資産価格理論	基礎ファイナンス
北田 皓嗣 准教授	CSR マネジメント	2021 年度の担当科目なし

●MBA修了生・現役生の声

刺激的なHBS

教育の現場で充実した日々を送っていた私は、その一方で会計学を学びたいという思いを抱いていました。私が最も関心をもっているのは、地方自治体が行う会計、医療法人会計、学校法人会計等、いわゆる公会計といわれる分野です。公会計を理解するためには、まず企業会計の理解が必要不可欠であると考え、HBSへの入学を決意しました。

入学後は驚きと感動の連続でした。HBS教育には3本柱である、講義・ワークショップ・論文作成があります。講義は、院生による発表内容について理論とケースを交えながら受講者全員で討論することにより、問題解決能力を高めていくものでした。これはビジネススクールの核心部分であり、刺激的なものでした。また、「政策法務論」・「地方財政学」等、私が興味を持っている講義を研究科・専攻・コースを越えて履修が可能であることも大きな魅力でした。ワークショップでは、第一線で活躍されているゲストスピーカーによる講義と、そ

高江洲 司さん（2014年3月修了）
学校教員



の講義後のディスカッションがありました。ゲストが大学教員の場合、高度な会計理論の講義があり、会計学の学問としての深さに感心しました。またゲストが実務家の場合、企業経営の真髓に迫る内容の時には感動さえありました。

HBSは修了要件として修士論文を要求しています。ビジネスの場で活躍されている人にとって自分の考えを深く検討し、さらに論文としてまとめる機会は皆無に等しいと思います。自ら問題点を発見し、その問題に対する解決方法を深く追求し、最終的に論文という形で表現するということは、アカデミズムの世界に触れる最良の機会であり、最も意味があることと思われます。

仕事の後、疲れきった状態で講義に出席したことも度々ありました。しかし、HBSは刺激的で最高の環境を提供してくれます。私は先生方や院生達と共に充実した素晴らしい時間を過ごせたことに感謝しています。



永山 晋 准教授

これからの時代を担う企業経営と経営学のプロフェッショナルへ

経営学研究科は、現実の企業経営を題材としながら、組織との中で繰り広げられる人間の営みを研究し、その成果を教育することを目的として設立された研究科です。組織や人間の営みは多様であり、単に現象を追うだけでは、現実の世界で日々生じる複雑な現象の洪水に溺れてしまいます。しかし、表面上は異なって見える現象でも、その根源を探求していくと、共通した原理にたどり着くことがしばしばあります。混沌とした現実をより深く理解するには、原理(理論)を知っていることが重要です。理論を学び、何が重要であるかを見極めることによって、現実の理解を深めていくことが可能になるのです。経営学研究科が目指しているのは、このような思考のできる人材の育成です。より具体的には、教育研究機関・学会等で通用する高度な研究・教育成果を上げることができる研究者・教育者

の育成、企業・その他の団体等において高度な経営課題に応えられる経営管理職、専門職の育成をすることを目指しています。

経営学専攻昼間コースは、1992年に従来の経済学専攻から独立し、専門的な経営学の教育を通じて数多くの研究者や高度職業人を養成してきました。本専攻では、経営学の基礎から応用までの理論的なアプローチに加え、現実の企業活動や社会現象を実証的に分析するためのさまざまな手法が学べます。組織、人事、戦略、アカウンティング、ファイナンス、国際経営、マーケティング、経営史など企業経営の諸側面について幅広く研究できるうえ、夜間コースの授業や他専攻の授業も受講することができます。経済学や統計学に関する科目も開講しており、総合的に企業経営を捉える視点を養うことが可能です。高度な知識・理論を講義やディスカッションを通して習得し、さらには、細やかな個別指導のもとで質の高い修士論文を作成します。

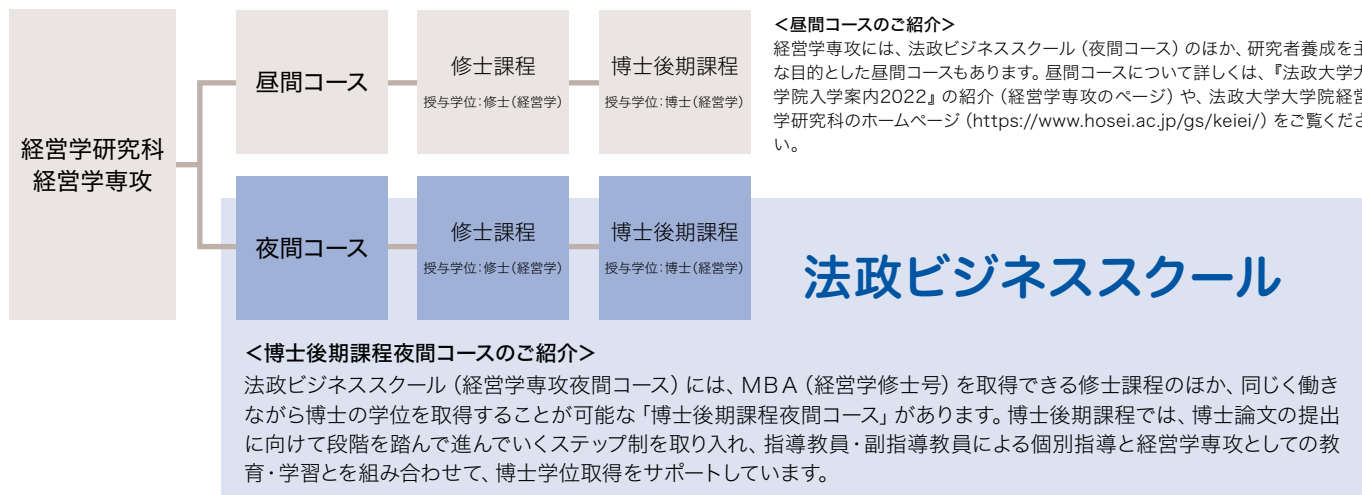
●昼間コース・夜間コース共通科目 (2021年度)

教員名	研究テーマ	主な担当科目
安藤 直紀 教授	企業の国際経営戦略、制度理論の多国籍企業分析への応用	国際経営論 (国際経営コース)、ワークショップ (国際経営コース)、経営学演習 (昼間コース)
大木 良子 教授	競争政策の経済理論分析	産業組織論 (昼間コース)
児玉 靖司 教授	データマイニング、大規模授業配信のビジネスモデル	情報学特論 (夜間コース共通)
高橋 理香 教授	貿易政策に関する理論および実証研究	国際経営演習 (国際経営コース)
入戸野 健 教授	ネットワークと知識に関する技法、確率的シミュレーションモデル	2021 年度の担当科目なし
平田 英明 教授	日本の景気動向、日本の金融システム、期待形成と経済政策	2021 年度の担当科目なし
洞口 治夫 教授	日本企業の海外直接投資	国際経営論 (2021 年度担当は安藤)
宮澤信二郎 教授	企業の資金調達と競争に関する戦略の相互作用について	ミクロ経済論 (昼間コース)
横内 正雄 教授	英国系海外銀行の発展に関する研究	国際金融論 (国際経営コース)、国際経営演習 (国際経営コース)
李 瑞雪 教授	新興国市場における日本企業のロジスティクス戦略、新興国物流企業の経営戦略	2021 年度の担当科目なし
片桐 満 准教授	金融政策の理論分析、コーポレートファイナンス	金融論 (昼間コース)
高橋 慎 准教授	金融時系列データの統計分析	2021 年度の担当科目なし

●修士論文の例

年 度	題 名
2020	CEO のビッグ・ファイブと企業のリスク・テイキングーTwitter データに対する機械学習の応用ー
	外国人労働者の組織社会化ー組織社会化エージェントの活用ー
	ライブコマースにおける消費者の購買意欲を誘発する要因
	中国における生配信に基づくインフルエンサーマーケティングに関する研究ーフロー体験の視点からー
	組織文化とマネジメント・コントロール・システムの関係に関する文献レビュー
2019	米国と中国の主力動画配信サービスにおけるビジネスモデルの研究ーNetflix と iQiyi の事例を踏まえてー
	企業間アライアンスにおけるコミュニケーションと情報共有意欲について
	日本で就職した中国人従業員のリアリティ・ショックー日系企業と外資系企業の比較ー
	中国の家庭用ゲーム市場におけるゲーム・コミュニティの重要性ーソニー・プレイステーション 4 にみる購買行動の事例研究ー
	オンライン・ショッピングにおけるオンライン・インタラクティブが消費者行動意図に及ぼす影響に関する研究

法政大学大学院経営学研究科経営学専攻について



学費(年額)のご案内 ※本学出身者は入学金が免除となります。	修士課程	入学金 200,000 円 (入学時のみ)	授業料 570,000 円	教育充実費 80,000 円
	博士後期課程	入学金 200,000 円 (入学時のみ)	授業料 400,000 円	教育充実費 60,000 円

修士課程（夜間）は、「教育訓練給付制度厚生労働大臣指定講座」の指定を受けています。この制度は、修了後本人がハローワークへ申請することで、教育訓練経費（入学金と初年度授業料）の20%（上限額10万円）の教育訓練給付金が支給されるものです。

入学試験について

法政ビジネススクール（修士課程・夜間コース）の社会人入試は2回あり（11月、2月予定）、口述試験によって行われます。出願の際に研究計画書を提出していただきますが、口述試験ではこの研究計画書について希望コースの教員が面接にあたります。募集人員は各コース10名前後です。出願期間、入試日程、合格発表日程については入試要項をご確認ください。

なお、2022年度の夜間コースおよび昼間コースの口述試験はオンラインで実施する予定です。昼間コースの入学筆記試験は指定の試験会場で実施する予定です。

対面授業・オンライン授業について

通常は対面授業を実施していますが、新型コロナウイルス感染症に対する行動方針の大学の行動制限レベルによりオンライン授業も並行して実施しています。本学では感染拡大予防マニュアルを整備するとともに、各教室には消毒用アルコール、飛沫防止用パーティションなどの防止対策を講じております。また、学内に適宜メールなどを通じ、感染症の状況や授業実施方法に関する情報を伝達しています。詳しくは以下のウェブサイトをご参照ください。

学生向け感染拡大予防マニュアル <https://www.hosei.ac.jp/hosei/torikumi/covid19/39135>

■法政大学大学院へのアクセス

- 東京メトロ有楽町線・南北線
市ヶ谷駅下車徒歩2分
- JR線、都営新宿線・大江戸線、東京メトロ東西線
市ヶ谷または飯田橋駅下車徒歩10分



■法政ビジネススクールについてのお問い合わせは

法政大学大学院事務局（法政大学大学院棟1階）

〒162-0843 東京都新宿区市谷田町2-15-2 TEL.03-5228-0551 FAX.03-5228-0555 E-mail : i.hgs@ml.hosei.ac.jp

法政ビジネススクールホームページ <http://hbs.ws.hosei.ac.jp>